



創刊号  
2005年8月5日発行  
発行  
社会福祉法人  
かしの木会 くず葉学園  
〒259-1302  
神奈川県秦野市菩提2058-2  
印刷：オフィス・フルプリント

TEL：0463-75-3221 FAX：0463-75-2550  
ホームページ：http://www.kanagawa-id.org/kuzuha/



# 大きく育てね

## ヤマメの稚魚を 放流しました

今年も秦野市役所の同好会「景釣会」の皆さんのお誘いをいただき、ヤマメの稚魚を葛葉の泉で放流しました。毎年恒例の行事として、学園のみんなもとても楽しみにこの日を待っていました。この日は職員含め20名が参加させていただきました。

バケツに十数匹ずつ分けてもらい、そっと（人によってはバシャッと）川に。川の流ればけっこう急ですが、ヤマメの稚魚はそれにも負けず元氣よく泳いでいきました。景釣会の皆さんは葛葉以外にもヤマメを放流されているそうです。

ある釣り好きの人がひと言「学園の皆さんが放流したって思うと、なんだか釣っちゃ悪いなって思っんですよね…」この日の模様は、新聞やタウンニュースでも紹介されました。それもまた、みんなの楽しみのひとつになっています。

景釣会の皆さん、ぜひまた来年も誘ってください。よろしくお願ひします。

創刊にあたり

# 学園はこうして生まれ育った



社会福祉法人  
かしの木会理事長  
水田 努

創刊にあたり「法人設立から現在までの沿革」を中心に千字程度にまとめて欲しいと出筆依頼があり、当時を知る数少ない一人として筆を取ることにしました。

## 産みの苦しみ

「弘済学園」と私的契約をしていた保護者が中心となつて、中村健二園長の指導とバックアップを受けながら三十四名の保護者が発起人となり、これらの人が四億一千万円強の出費をし、設立に向けてスタートすることになりました。

設立の趣旨としては「家庭の延長線上にあるアットホームな生活を送ることのできる施設」「入所者の能力に応じ、仕事を通して生き甲斐のある生活を送ることのできる施設」「親亡き後も安心して託すことのできる施設」の三点にあったと思います。

初代園長には、熱血漢の野人、飯田哲哉氏を内定し、建設の総工費を五億六千万円強としました。

神奈川県は、社会福祉事業振興会からの借入金二元利償還金の三分の二を補助してくれるので、目一杯借入することとしました。その結果、総工費の35%を国庫補助、45%を振興会からの借入金で賄うこととし、自己資金は20%に抑えることができました。

ところで、最大の難関は土地取得でした。取得予定地の地元住民の猛反対で、二転三

転しました。この交渉の先頭に立たれた小原さんは故人になられ、古川さんは病床に伏しておられますが、交渉の末席にいた者として、当時を振り返ると、苦しい出が多々あります。

## 誕生

内定していた国庫補助金は、一年目は明許繰越に、二年目は事故繰越にしてもらいましたが、三年目に実現しないと折角内定していた国庫補助金も振興会からの借入金も白紙に戻ることになるので、当時の秦野市長の柏木幹雄氏に助けを求めました。市長の斡旋で現在の地に決めることができました。

その後、飯田園長の熱意で、順次、運動場・体育館・地域交流センターを整備することができました。

一方、施設運営の方は、人によって評価が分かれるかと思いますが、私は必ずしも順調に推移してきたとは言えなかったと思っています。最近、やっと落ち着きを取り戻しほつとしているところです。

## そして成人

早いもので創立二十周年が近づくとということで、親の最後の力を振り絞って、三億四千万円強をかけて本館の大改築と増築をすることとしました。加藤園長以下職員の懸命なご努力で無事故に終わることができました。

授産の方も、倉庫業の減収を補てんするため、給食用の野菜作りや、新年度に向けて幾つかの新規事業も計画されています。躍動する事業展開を期待しています。

## 『短期入所サービス』スタート!!

学園のリニューアルにあわせての開始ですので、お部屋もとてもきれいです。利用件数も順調に伸び、皆様に満足していただけるよう、よりきめ細やかなサービスをご提供してまいります。



お問い合わせは、学園窓口まで  
スタッフ一同ご利用お待ちしております。

## さざんか民謡クラブ

平成八年から十年目。月に一度のカラオケや踊りで楽しんでいます。利用者の皆さんとはもうすっかり友達のような関係に。夏祭りの盆踊りも盛り上げてくださいね。



# お世話になっ ていきます!

## 折り鶴会

平成八年から十年目。毎月十六日に衣類の補修をお願いしています。ボタン付けや裾上げなど、真心をこめて丁寧に。いつもありがとうございます。



## お気軽に「ボランティア」してみませんか?

まずは学園の皆と知り合いになって自分自身が楽しんでください。そこから始まります。

お問い合わせ：加藤ひさ子・井上浩一まで

## キティちゃんクラブ

平成十六年九月からスタート。月に一度の体操クラブ。鮮やかなユニフォームの皆さんと一緒に、ペットボトルを使った体操など誰にでも出来て楽しみながら体力づくりが出来ます。

## 絵手紙

四季折々の花や野菜を手にして、「きれいなえ」「おいしそう」とおしゃべりを弾ませながら月に一度の回を重ね、「ゆとり」のひとつ。そろそろ展示会でも開きますか?

## 新しく、そして逞しく ご協力ありがとうございました

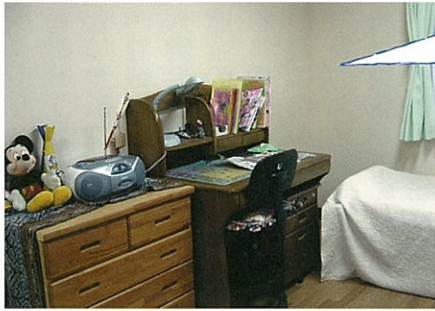


くず葉学園  
園長  
加藤 邦彦

平成十五年十月から始まりました増改築工事も、平成十六年八月に竣工いたしました。その間、地域の皆様の温かさや優しさに支えられたのはじめ、利用者の皆様のご父兄の皆様に多くのご協力をいただき感謝に堪えません。

工事の方は利用者の皆様が生活をしながらのことで、何かと不自由でいろいろと生活する上で支障をきたすことがあり、そんな中でも利用者の皆様は何か一つ苦情も言わず、落ち着いて楽しく生活をして下さいました。増改築が済んで、新しい環境の元での生活をしていますと、ひと回りもふた回りも逞しくなった利用者の皆様の姿に驚かされました。

時の流れは速く、学園も創立から二十二年目を迎えます。た。豊かに自分らしく、人として当り前の暮らしを保障するという理念の基、いろいろな試みを通して利用者の皆様の日中の過ごし、生活の安定という時を経て、いつもと変わらない生活が当り前にできている。今、があるので。 「障害者自立支援法案」が国会に上程され、障害のある人達を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。利用者の皆様にとっては経済的負担が大きくなり、施設のあり方が問われます。支援する者が、今、何をすべきかを明確にして生活を守り、安心して暮らせる環境を整え取り組んでまいります。



居室

一人ひとりのスペースが増え、ゆったりとした部屋になりました。趣味の幅も広がりますね。

やわらかな照明と色合いになり、優しくつつまれるような温かみを感じました。



廊下

## 20年目のお色直し

### リニューアルした学園の一部を紹介！



トイレ

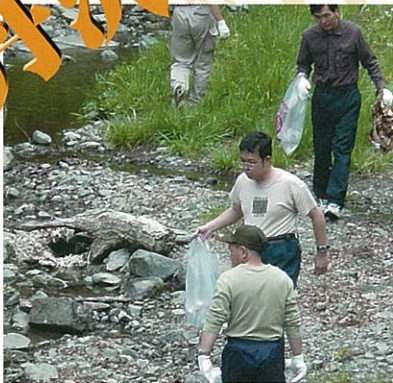
車椅子でもらくらく入れて使えるトイレも新設。そして全部にウォームレットがつけました。

将来を考えて介護用の入浴機械も新設しました。試した人によると案外気持ちいいそうです。



浴室

# 丹沢の自然を守ろう！



自然を楽しんだら、ごみは必ず持ち帰りましょう！ここは名水百選にも選ばれたきれいでおいしい水が流れる川。そして表紙のヤマメたちが育つ清流です。

月に一度、地域の美化清掃を実施しています。そこで目に付くのがハイキングやキャンプに来た人達が捨てていくごみ、そして不法投棄！！毎回たくさんのごみが捨ててあります。誰ですか？捨てたのは。「だめだよねー」とみんなも言っていますよ！



今回大きいものでは電子レンジが二つ不法投棄されていました。でもこれはまだまだ小さいほうです。大型電化製品や家具もよく捨ててあります。

## 編集後記

くず葉学園広報紙「Leaf (以下、リーフ)」創刊号いかがでしたか？ スタッフ一同、初めての広報紙作りで、まったく右も左も分からないところからスタートしました。いろいろ教えてくださり、アドバイスをいただいたオフイス・フルプリントの古木様、本当にありがとうございました。

「リーフ」という紙名は職員に公募し、その中から選びました。学園は四季折々に色を変える丹沢の自然の中にあります。「くず葉」の「葉」とそんな環境のイメージから「葉」の「生命」や「輝き」の意を込めて「リーフ」と名付けました。

定期ではなく不定期の発行ですのでいつになるか未定ですが、今年度中に第二号をお届けする予定です。

普段なかなかお伝えすることのできない、学園の素顔や活動など紹介して、少しでも学園と利用者の皆さんを身近に感じていただけるそんな広報紙にしていきたいと考えています。